

## ▼ボンゾール錠 [内]

【重要度】【透析患者に投与禁忌】 【一般製剤名】ダナゾール (U) danazol 【分類】子宮内膜症・乳腺症治療剤

【単位】▼100mg・▼200mg/錠

【常用量】■子宮内膜症：200～400mg/日 ■乳腺症 200mg/日

【用法】■子宮内膜症：1日2回，月経周期第2～5日より，約4カ月間連続経口投与 ■乳腺症：1日2回月経周期第2～5日より，4～6週間連続投与

【透析患者への投与方法】重篤な腎疾患では浮腫等の症状が強く現れることがあるため禁忌 (1) となっているが、薬物動態パラメータに関する情報が乏しいため投与设计不可能 (5) 【その他の報告】少量投与は特発性血小板減少性紫斑病治療の選択肢である (小川 さえ子, 他: 日本透析医学会雑誌 42:173-177,2009)

【保存期腎不全患者への投与方法】重篤な腎疾患では浮腫等の症状が強く現れることがあるため禁忌 (1) となっているが、薬物動態パラメータに関する情報が乏しいため投与设计不可能 (5)

【特徴】エチステロン誘導体 (合成アンドロゲン) のゴナドトロピン阻害薬。血栓症の発症リスクと関与している。

【副作用】血栓症，心筋梗塞，劇症肝炎，間質性肺炎，男性化現象，電解質異常，頭痛，悪心・嘔吐，一過性視力障害，複視など

【F】初回通過効果を受ける (Hooper WD, et al: Biopharm Drug Dispos 12: 577-82,1991)

【Tmax】2.5hr (1)

【代謝】肝で代謝され，エチステロン，17-ヒドロキシメチルエチステロンに変換される (U) CYP3A4 を阻害する (1)

【排泄】代謝物として腎排泄 (U) 尿中に18%回収 [ラット] (1) 尿中回収率50% (11) 【CL】710L/hr (Hooper WD, et al: Biopharm Drug Dispos 12: 577-82,1991)

【t1/2】9.44hr (Hooper WD, et al: Biopharm Drug Dispos 12: 577-582,1991) 24hr (U) 平均2.6hr (11)

【蛋白結合率】データなし (1)

【Vd】データなし (1)

【MW】337.46

【透析性】データなし (1)

【相互作用】スタチンの代謝を阻害するため併用注意 (1)

【備考】子宮内膜症治療患者における卵巣癌発現のリスク増大が指摘されている (1)

【更新日】20160204

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。